

中古文学会 2025 年度春季大会 開催案内

【重要】 会員のみなさまへ

2025 年度中古文学会春季大会の開催につきましては、常任委員会において協議した結果、下記のようにすることといたしましたので、お知らせ申し上げます。ご了承の上、ご参加いただきたくお願い申し上げます。

記

- (1) 春季大会は、全プログラムを対面にて開催します。参加にあたり事前申し込みを原則としますが、会員の場合、事前申し込みなしでも当日の参加を受け付けることとします（大会参加費として1,000 円を現金でお支払いいただきます。釣銭の必要がないようご配慮ください）。
- (2) 現地参加が困難な方々のことも勘案し、シンポジウム・研究発表等を録画しまして、大会日程終了後、事前申し込みをされた会員に限って視聴できるようにします（学会ポータルデスクの協力を得て録画いたしますが、画質・音質等の保証はできません。また、研究発表については録音のみの場合もありえます）。なお、視聴後に質問等を行うことはできません。
- (3) 1 日目に開催する懇親会への参加を希望される方は、同封の振込票によって事前申し込みを行ってください（事前申し込みが原則です）。懇親会費は、一般会員 7,000 円、学生会員 4,000 円です。なお、懇親会の形態は今後の状況によって変更となる場合があります。また、振り込まれた懇親会費は、懇親会が中止となった場合以外、返金できません。ご了承ください。
- (4) 2 日目の昼食（お弁当）の販売を行います。希望される場合は、同封の振込票によって申し込みを行ってください（当日の申し込みはできません）。昼食代（お茶付）は、950 円です。
- (5) 現地参加の場合、同封の振込票によってなるべく事前申し込みを行ってください。録画視聴を希望される場合は、上記（2）のとおり、事前申し込みを必須とします。いずれも大会参加費（資料集代を含む）は 1,000 円です。なお、「資料集」の PDF による配付は行いません。
- (6) 事前申し込みをされた方には、大会の前（5 月初旬を予定）に「資料集」と「録画視聴の案内」を郵送します。現地参加の方は、「資料集」を会場に持参してください。また、録画視聴の方は、大会日程終了後に「録画視聴の案内」にしたがって視聴してください。
- (7) 今後の感染拡大などの状況によっては、大会の全プログラムを遠隔開催とすることもあります。開催形態を変更する場合は、5 月上旬までに学会公式サイトに掲載します。
- (8) 会員外の方も、学会 HP からの事前申し込みによって現地参加がすることとします（ただし、懇親会参加、昼食の注文、録画視聴は不可）。大会参加費（1,000 円）については、当日の受付にて現金でお支払いいただきます（釣銭の必要がないようご配慮ください）。

そのほか、最新情報は学会公式サイトを通じてお知らせします。本件に関する事務局・会場校への個別の問い合わせは、お控えくださるようお願い申し上げます。 中古文学会事務局

大会日程・大会会場

大会日程	5月17日(土) 13:00~17:10 〈受付〉12:30 受付開始 中古文学会、シンポジウム (17:45 より 懇親会) 5月18日(日) 10:00~16:30 〈受付〉9:30 受付開始 研究発表会(午前)、委員会、研究発表会(午後)
大会会場	東京女子大学 24号館 2階 24202教室 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
懇親会会場	東京女子大学 72年館(同窓会館) 〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1

大会参加要領

1. 大会参加費

- ・参加費(資料集代を含む): 現地参加、録画視聴いずれも 1,000 円
 - ・懇親会: 一般会員 7,000 円、学生会員 4,000 円
 - ・昼食代(2日目): 950 円
- ※入金された参加費の自己都合による返金、または他の参加者への付け替えなどには応じられません。
- ※領収書は、振込受領証に替えることとし、基本的に別途発行いたしません。

2. 申込方法

- ・同封の振込票による入金をもって申し込みを承ります。必要事項をご記入の上、上記の額をご入金ください。
- ・加入者名 中古文学会大会実行委員会
- ・口座番号 00240-3-99727

3. 会員外の方の 申込方法

- ・学会公式サイトより申し込み締切までにお申し込みください。
- ・申し込み時にご記入いただいた個人情報は、本大会の運営管理にのみ使用させていただきます。
- ・参加費(1,000 円)は当日会場受付にて現金でお支払いください(釣銭の必要がないようご配慮ください)。

4. 申込締切

2025 年 4 月 18 日 (金) ※締切後の申し込みは承ることができません。
※締切後の入金は固くお断りいたします。

5. 住所・所属等の 変更

- ・住所・所属等の変更は、学会公式サイト「[会員ページ](#)」をご利用ください。
同封の振込票に記載されても、変更について承ることができません。

6. 学会費の納入

- ・同封の振込票は【大会参加費専用】です。学会費は納入できません。また、大会会場での学会費納入は受け付けません。

7. 出張依頼状

- ・氏名・職名・提出先(所属長名)を明記の上、ポータルデスクへメールでお申し込みください。

- 8. 会場について**
- ・キャンパス内は、全面禁煙です。ご不便をおかけし、申し訳ありません。
 - ・キャンパスには駐車場がないため、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
 - ・大会期間中、学内の食堂は営業していません。
- 9. 宿泊について**
- ・観光シーズンのため、各自で早めにご予約ください。
- 10. 交流広場
(フリースペース)**
- ・以下の要領で交流広場を開設します。研究者相互の交流・情報交換の場としてご活用ください。
用途：博士論文要旨・論文抜刷・研究プロジェクト報告書等の展示や配布、研究会・学会等の紹介、会誌等の展示や配布・販売など。
資格：本学会員に限る。団体の場合は、本学会員が代表者であること。
申込：氏名（団体の場合は団体名および代表者名）・連絡先の住所・電話番号・メールアドレス・展示物等の内容について、4月18日（金）までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。
注意：スペースに限りがあるため、申し込み先着順で受け付けます。広場には、机と椅子を用意します。それ以外の対応はしません。当日は、受付で利用手続きをしてください。交流広場は大会開催中開場します。利用時間は任意です。出品物の持ち込み、管理は各自で行い、終了後はすべて持ち帰ってください。
- 11. 臨時託児室**
- ・以下の要領で臨時託児室を開設します。
日時：5月17日（土）12:30～17:30、18日（日）9:30～16:40
対象：生後8週間を経過した乳児から小学6年生までの児童
運営：保育サービス ひまわりママ
場所：東京女子大学 7号館 7105教室（予定）
料金：1人につき、保育時間30分あたり 250円(学内基準を準用)
申込：保育対象者の人数・年齢・利用日および時間帯を明記し、4月10日（木）までに大会実行委員会へメールでお申し込みください。折り返し、詳細な手続き等をご案内します。
- 12. 問い合わせ先**
- ・大会全般に関すること
中古文学会事務局
〒162-8644 東京都新宿区戸山 1-24-1
早稲田大学文学学術院 陣野英則研究室内
E-mail：info@chukobungakukai.org
 - ・参加申込、参加費納入、出張依頼状に関すること
中古文学会ポータルデスク
〒111-0041 東京都台東区元浅草 2-10-11 吉延ビル 4F 株式会社新典社内
E-mail：info@chukobungakukai.org
 - ・会場、交流広場に関すること
中古文学会大会実行委員会
〒167-8585 東京都杉並区善福寺 2-6-1
東京女子大学現代教養学部 今井久代研究室内
E-mail：h-imai@lab.twcu.ac.jp

大会プログラム

会 場 東京女子大学（東京都杉並区）

【シンポジウム・研究発表会・総会会場】 24号館 2階 24202教室

【懇親会会場】 72年館（同窓会館）

【休憩室】 24号館 3階 24301教室

【委員会会場】 24号館 2階 24201教室

【書籍販売所】 24号館 1階ホール

【交流広場 他】 3号館 1階（予定）

【臨時託児室】 7号館 1階 7105教室（予定）

第1日 5月17日（土）

12:30	受付開始
13:00-13:05	開会の辞 東京女子大学副学長 竹内敦司
13:05-17:10	シンポジウム「AI【で】できること・データサイエンス【で】できること ——いかに古典を“読み解く”か——」 〈総合司会〉国文学研究資料館 中西智子 本シンポジウムに関するご挨拶 国文学研究資料館館長 渡部泰明 本シンポジウムの概要と目的について 文部科学省 幾浦裕之 登壇者（基調報告者3名、司会2名）による自己紹介 〔基調報告①〕AIを味方に付ける古典文学研究 ——テキスト化とデータ基盤構築の現在と未来—— Sakana AI カラーヌワット・タリン ……休憩（14:25～14:35）…… 〔基調報告②〕仮名字母による書写者推定 ——データサイエンスを用いた古典籍の調査方法と事例紹介—— 淑徳大学 齊藤鉄也 〔基調報告③〕文学研究とデータマイニング ——情報科学研究者との共同研究を通して—— 同志社大学 福田智子 ……休憩（15:55～16:15）…… 討議、フロアとの質疑応答 〈司会〉幾浦裕之
17:45-19:45	懇親会

第2日 5月18日（日）

9:30 10:00-12:00	受付開始 研究発表会（午前） 〔研究発表①〕 夕霧の字つけの儀 ——『源氏物語』「少女」巻における儀礼と表現—— 國學院大學（院） 武田結詩 〔研究発表②〕 『和泉式部日記』の制作と享受 ——三条朝における妍子後宮との関わりという視点から—— サレジオ工業高等専門学校／二松学舎大学（非） 大貫正皓 〔研究発表③〕 「後拾遺和歌抄目録序」の再考察 ——末尾の本文と『目録』奏覧の時期をめぐって—— 日本大学（院） 肖 蓁 ……休憩（12:00～13:20）・委員会（12：10～12：50）……
13:20-15:30	研究発表会（午後） 〔研究発表④〕 藤原俊成筆昭和切『古今和歌集』両序の再出現 ——天理図書館蔵残簡の紹介と考察—— 日本大学 久保木秀夫 〔研究発表⑤〕 前田家本『枕草子』再考 早稲田大学 新美哲彦 ……休憩（14:40-14:50）…… 〔研究発表⑥〕 菅原道真の蔵人頭辞状について 筑波大学（名） 谷口孝介
15:30-16:20	総 会
16:20-16:30	閉会の辞 中古文学会代表委員 陣野英則

シンポジウム

5月17日(土)

AI【で】できること・データサイエンス【で】できること——いかに古典を“読み解く”か——

	〈総合司会〉国文学研究資料館	中西智子
本シンポジウムに関する挨拶	国文学研究資料館館長	渡部泰明
本シンポジウムの概要と目的について	文部科学省	幾浦裕之
登壇者(基調報告者3名、司会2名)による自己紹介		

〔基調報告①〕 AIを味方に付ける古典文学研究

——テキスト化とデータ基盤構築の現在と未来——

Sakana AI カラーヌワット・タリン

〔基調報告②〕 仮名字母による書写者推定

——データサイエンスを用いた古典籍の調査方法と事例紹介——

淑徳大学 齊藤鉄也

〔基調報告③〕 文学研究とデータマイニング

——情報科学研究者との共同研究を通して——

同志社大学 福田智子

討議、フロアとの質疑応答

〈司会〉 幾浦裕之

【趣意】

AI・データサイエンスは、近年、驚くほどにもてはやされている。だが、AIもデータサイエンスも、待っていればなんでも出てくるドラえもののポケットではなく、ツールである。どのようなツールにも長所とともに短所もある。また、どのようなツールを使おうとも、もっとも大事なのは専門知が反映されたデータである。さらに、分析の目的を定め、分析結果を生かすための専門的な判断も必要である。ドラえもののポケットも、適切に要求しさえすれば夢をかなえる道具を出してくれる。AIやデータサイエンスも、適切な専門知や専門的な判断のもとに利用すれば、さまざまな夢をかなえてくれよう。

本シンポジウムでは、AIとデータサイエンスの違いや重なりを説明した後に、これらのツールを利用して、古典文学分野において、どのような研究を展開し得るか、あるいはどのようなプラットフォームを生み出し得るかを見ていただきたい。古典文学の研究と毎日

進歩していく技術の共存はきわめて重要な課題であるが、研究によっては非常に高い親和性を持つのではないだろうか。（事務局）

〔基調報告①〕

AI を味方に付ける 古典文学研究——テキスト化とデータ基盤構築の現在と未来——

カラスワット・タリン

日本古典籍のデジタル化は、国文学研究資料館が約 30 万点（約 3000 万コマ）の画像を公開するなど、着実に進展しつつある。一方、大量の画像を手動でテキスト化することは困難なため、全文検索などの新たな機能の開発には遅れが見られる。この状況を変えるには、古典文学研究の分野が、AI を味方に付けるべきである。本発表は、文字を認識する視覚モデルや文脈を把握する大規模言語モデルなどの AI 技術に関する研究成果を紹介するとともに、AI テキスト化やデータ基盤構築の現在と未来を議論する。

〔基調報告②〕

仮名字母による書写者推定——データサイエンスを用いた古典籍の調査方法と事例紹介——

齊藤鉄也

近年、影印本の出版に加えて、古典籍の画像公開によって、本文研究の研究環境が非常に変化している。これら公開された本文を活用した研究はこれからのテーマであり、その方法の提案や事例紹介が求められていると言えよう。本発表では、本文の仮名字母に着目し、データサイエンス（情報学と統計学）の方法を応用した、『源氏物語』写本を中心とした調査結果を報告したい。これまでの文献学や書誌学とは異なる、仮名字母に着目した写本本文の統計的分類という方法を用いて、調査対象写本の性格や写本間関係の考察を試みる。

〔基調報告③〕

文学研究とデータマイニング——情報科学研究者との共同研究を通して——

福田智子

伝統的な文学研究の方法として、用例を網羅的に収集・分析する実証的研究がある。では、どのような用例に着目するか。今から三十年程前、知識発見のための科学技術として、データサイエンス、中でもデータマイニングの手法に注目し、情報科学研究者との共同研究により、着目すべき文字列の候補を「抽出」する文字列解析ツールを開発した。そのツールは、同志社大学に文理融合の文化情報学部が設置された二十年前から教育に利用され、後に大学院における研究にも取り入れられて、現在に至っている。それらの教育・研究の実践例を報告する。

〔研究発表①〕

夕霧の字つけの儀 ―『源氏物語』「少女」巻における儀礼と表現―

國學院大學(院) 武田結詩

『源氏物語』「少女」巻では、夕霧の「字つけの儀」が二条東院で挙行される。従来、夕霧の「字つけの儀」は、元服から大学入学に至る子息教育の一部として解されており、光源氏の政治的意図についても指摘されてきたが、本発表では改めて「字つけの儀」という儀礼に着目し、考察を加える。

「字」は大学寮入学の際に選定される呼称であり、その「字」をつける儀礼は『源氏物語』が書かれた時代には簡略化していたことが指摘されてきた。当該場面における文章博士たちの戯画的に語られる姿は、そうした時代性を背景としたものとも捉えうるが、冷泉帝の聖代を現出させようとしている光源氏が、その「字つけの儀」を、元服の際に候補とした二条院ではなく、二条東院において挙行することは看過できない。また、「めづらしくいぶかしきこと」の見物に人々が集う中、先例による挙行を博士たちに命じつつ、御簾の内に隠れる光源氏の姿には、この儀礼空間における独自のあり方を見ることができる。当該儀礼を行う光源氏は果たしてどのようなことを目指しているのだろうか。

本発表では、まず「字つけの儀」という儀礼を史料等により再検討する。そして、二条東院という邸宅の物語的意義の変遷を確認したうえで、夕霧の「字つけの儀」において戯画的に語られる博士たちや御簾の内に隠れる光源氏をめぐる表現等を分析することにより、当該儀礼がいかなる物語世界を構築しているかを考察する。

〔研究発表②〕

『和泉式部日記』の制作と享受 ―三条朝における妍子後宮との関わりという視点から―

サレジオ工業高等専門学校／二松学舎大学(非) 大貫正皓

『和泉式部日記』(以下、本作)の制作と享受については、敦道親王の死後、彰子の後宮に宮仕えした和泉式部により時を置かず執筆され、その内容は彰子及び彰子の後宮において享受されたとする見解が通行している。本発表では、この認識に再考の余地が残されていることを指摘し、また本作の政治性に着目する先行研究(福家俊幸氏「『和泉式部日記』の人間関係―政治という視座から―」(『国語と国文学』 第九五巻第五号 二〇一八年五月)を踏まえ考察することで、本作が三条朝の道長女妍子の後宮に深く関わるかたちで制作され、享受された可能性を提示する。

具体的には、作中に登場する敦道親王の北の方が、小一条流の済時の女、三条天皇の后で

ある城子の妹であることに着目し、そのことと作中で北の方を貶めていると判断し得る叙述が存在することとの密接な繋がりを見出す。妍子の入内後、小一条流一門と九条流一門との間で皇位継承をめぐる争いが激化したことは想像に難くなく、作中の北の方を貶める表現は、その対立の隠微な顕れだと考える。

また、本作を九条流の文芸と理解した場合、冷泉系の皇子敦道親王を魅力的に描き、皇位との近さを強調する作品内容は、道長の外戚政策が前進する敦成親王立太子(三条天皇即位)以後に制作されたとみることが妥当であることを指摘する。

以上の考察から、本作が三条朝の妍子後宮と高い親和性を有する作品であることを確認していく。

〔研究発表③〕

「後拾遺和歌抄目録序」の再考察 ——末尾の本文と『目録』奏覧の時期をめぐって——

日本大学(院) 肖葵

本発表は、藤原通俊による『後拾遺和歌抄目録』(『目録』)の序文(「目録序」)を通して『後拾遺抄』の成立過程を考察する。

『目録』の精撰・奏覧について、「目録序」に「勅成一巻、名『後拾遺和歌抄目録』。収容待時、雖得握翫於青陽之天。製作達先、猶定甄録於玄律之日。于時寛治元年秋八月、重以記之」とある。こうした序文の記載から、上野理氏は「後拾遺集の成立」(『国文学研究』二三輯、一九六一年三月)で、寛治元年(一〇八七)の「八月に目録とその序が奉られたことが分かる」という見解を示し、今日において定説化されている。

ところが、改めて「目録序」を精読すると、『目録』は「寛治元年秋八月」の時点では「製作 先に達し」ていたが、「猶」「玄律之日に定め」られる状態にあり、「収容 時を待つ」中、「握翫」の時は「青陽之天」とされたことが分かる。

この精読の結果に従えば、『目録』は「目録序」が執筆された時点で、実はまだ精撰も奏覧も行われていないという奇妙な状況にあったことになる。

「収容待時、雖得握翫於青陽之天。製作達先、猶定甄録於玄律之日」という一文をいかに理解し、『目録』の奏覧時期をどう推定するのか、本発表において、『目録』の奏覧は寛治二年(一〇八八)一月であった可能性を提示・考察したい。

〔研究発表④〕

藤原俊成筆昭和切『古今和歌集』両序の再出現 ——天理図書館蔵残簡の紹介と考察——

日本大学 久保木秀夫

『古今集』昭和切は藤原俊成真筆の名物にして、定家による本文校訂時の底本にされたと目されている重要本文資料である。寛永八年(一六三一)の段階で上帖のみの残欠一帖とな

っており、昭和三年（一九二八）に複製本が作られた上で分割された。その上帖の最初に本来含まれていたとおぼしき——複製本は巻一～十のみ——真名序・仮名序の全文の残簡を、のち久曾神昇が見出して『古今和歌集成成立論』（一九六〇、風間書房）に全文翻刻を掲載したが、原本そのものについては一枚の図版も詳細な書誌情報も紹介されることがないまま、以後今日に至るまで存否不明となっていた。

ところが天理大学附属天理図書館蔵の「古今和歌集両序」（911.23 イ 127）という列帖装一括り二十六丁分の残簡が、まさしくその昭和切から分離していた真名序・仮名序の全丁・全文そのものであった。すなわちほぼ本行本文と略書誌以外は実態未詳、かつこれまで実質的に現存の確認されていなかった俊成真筆本が、一部分ながらも冊子の状態を保ったまま再出現したということである。

そこで本発表では当該「両序」の書誌情報や、他の俊成本また定家本との本文異同等を示しつつ、本行本文・他本注記・訓点・勘物・修訂痕その他について検討し、その資料的価値を明らかにする。と同時に真名序や仮名序、俊成本や定家本、ひいては『古今集』の本文研究に関わり浮上してくる問題点についても言及していく。

〔研究発表⑤〕

前田家本『枕草子』再考

早稲田大学 新美哲彦

よく知られているように、『枕草子』には三卷本系、能因本系、前田家本、堺本系の四種の本文系統がある。このうち、前田家本『枕草子』は、「少くとも鎌倉中期を下らざる書写」（『尊経閣叢刊 前田本枕草子解説』 一九二七・一二）と、現存の『枕草子』諸本の中で格段の古さを有するにもかかわらず、光明（楠）道隆「枕草子異本研究一類纂形態本考證（上下）」（『国語国文』4-6、7 一九三四・六、七→『枕草子異本研究』笠間書院 一九七〇・四）以降、現在に至るまで、「前田家本は伝能因本（厳密に言えば現存能因本の源流本）と堺本（厳密に言えば現存堺本の源流本）との二種の『枕冊子』を持っていた人が、堺本の形態に準拠して更に完璧を期して、きわめて誠実な態度をもって両底本の集成を企てたものである」（速水博司「前田家本」『枕草子大事典』勉誠出版 二〇〇一・四）という理解が定着している。

果たして、前田家本『枕草子』は、能因本と堺本の集成というような単純な本文なのであろうか。「資料的に、三卷本・能因本に並んで独立の地位を与えられるべき資格を持つものとはいえない」（速水博司「前田家本」同上）ものなのだろうか。

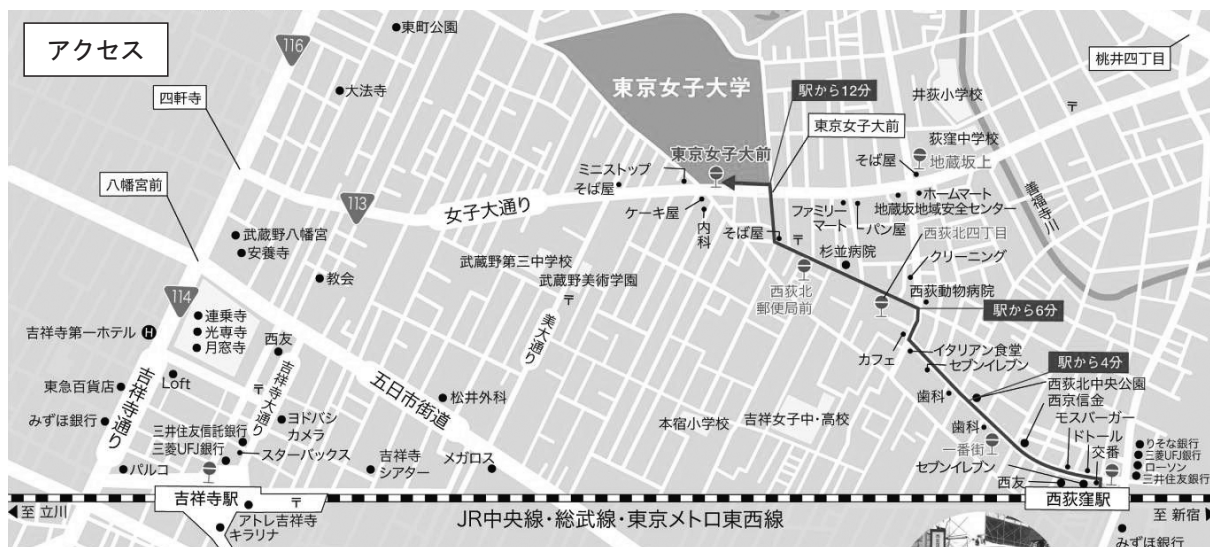
本発表では、前田家本『枕草子』について、楠論の再検討をした上で、三卷本系本文との遠近を探り、さらに前田家本が平安時代の『枕草子』本文を遺している可能性について考察したい。

〔研究発表⑥〕

菅原道真の蔵人頭辞状について

筑波大学（名） 谷口孝介

寛平二（八九〇）年春、菅原道真は讃岐守を離任する。翌年二月二十九日、宇多天皇は道真を散位のまま蔵人頭に任じた。日をおかず翌三十日に道真は「散位正五位下臣菅原某」との位署をもつ「初授蔵人頭献状」（菅家文草・巻九・奏状）を奏上する。道真が衷心から当職を辞退しようとしていたことは、勅旨のあった翌日に奏上していることから分かる。君のために身命を惜しむものではないが、「非抛の職」に就くことはできない旨、事理を分けて訴えている。具体的根拠として「近代の例」九名を挙げて、いずれも皇族や権門の出身者であることを言う。しかしながらこの時期の二十二名の蔵人頭は必ずしもそれに該当する人物ばかりではなく、行論の都合での人選であることはすぐに理解できる。ことほど道真は散位の状態での蔵人頭任官に抵抗していたのである。事実三月九日の式部少輔任官、四月十一日の左中弁兼官後、四月二十五日に奏上された「蔵人頭正五位下左中弁兼式部少輔某」との位署をもつ「重請解蔵人頭状」（同）で知られるように、この間蔵人頭任官は宙に浮いたままであったようだ。ただこの第二状は第一状とはことなり、通常の辞状と同様位署に「蔵人頭」を冠している。このことから逆に第一状の特殊性が浮かびあがってくるのである。本発表においてはこの第一状および巻五の同時期の詩作の読解を通して、寛平三年時の道真の文人官僚としての意志を探ることとする。



「西荻窪」駅（JR 中央線、JR 中央・総武線、東京メトロ東西線乗り入れ）から

- ・北口より徒歩 12 分
- ・北口（1 番のりば）より関東バス・西 10・吉祥寺駅北口行バスで「東京女子大前」下車すぐ

※中央特快、通勤快速、通勤特快は西荻窪駅には停車しません。

※土・日・祝日は中央線快速が西荻窪駅には停車しません。中央・総武線各駅停車または東京メトロ東西線乗り入れをご利用ください。

「吉祥寺」駅（JR 中央線、JR 中央・総武線、京王井の頭線）から

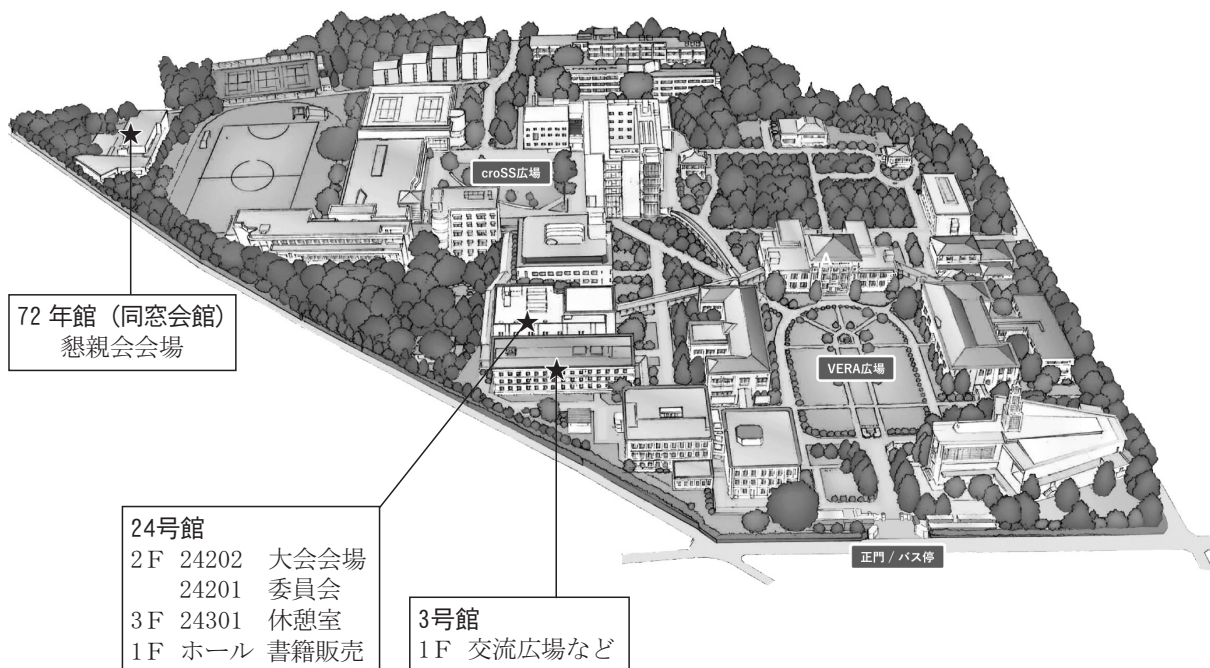
- ・北口（3 番のりば）より関東バス・西 10・西荻窪駅行バスまたは関東バス・吉 81・上石神井駅行バスで「東京女子大前」下車すぐ

※JR 中央特快、JR 通勤特快は吉祥寺駅には停車しません。

※JR の場合、北口方面へは中央改札のご利用が最も便利です。

「上石神井」駅（西武新宿線）から

- ・南口（1 番のりば）より関東バス・西 02・西荻窪駅行バスで「地蔵坂上」下車、徒歩 5 分
- または関東バス・吉 81・吉祥寺駅行バスで「東京女子大前」下車すぐ



72 年館（同窓会館）
懇親会会場

24 号館
2F 24202 大会会場
24201 委員会
3F 24301 休憩室
1F ホール 書籍販売

3 号館
1F 交流広場など